

産業経済功労 みだけんじ 三田賢司氏



市内の米穀類
小売店の元経営者。地
域に密着した経営をしながら、矢
川メルカード商店会会長、国立市商
工会理事、国立市老人クラブ連合
会会長等を歴任し、矢川メルカード
まつりやくにたちポイントなど地域の
活性化につながる事業を企画。
長年に亘り地域の振興に
貢献している。

—お米屋さんを始められたきっかけを教
えて下さい。

私は三田食料(後の三田米店)の三代
目として米屋に就きました。

そもそも店は、戦前に祖父の代で開業
しました。当時は肥やしや家畜の餌を農
家に売って、代金がわりにもらった米を市
民に販売していたのです。

二代目である父の時代、国立市はJR
中央線が引かれ、一橋大学が誘致され
た頃ですが、このときに専業の米屋となりま
した。谷保地域は農家の家庭が多いため、
なかなか売れなかつたようです。当時、酒
屋と食料品との兼業米屋は沢山ありまし
たが、米だけの専業のお店は5件くらいし
かありませんでした。

昭和27年に私は高校を卒業しまして、
本当は進学したかったのですが、その時父
は既に戦争で他界しており、母一人で店
を営営するのは大変だったこともあり、店
に入ることにしたのです。

—商工会の役員や矢川メルカード商店会
会長を務めていた頃、どのような活動を
していましたか。

商工会では、くにたちポイント事業の立
ち上げを行いました。当時としては画期
的な事業でした。国立市の商店に一軒一
軒赴き、この事業への参加をお願いして回

った記憶があります。ポイント事業の最
盛期は、市内商業の売上が跳ね上がった
ので、確かな効果があったと思っています。
また、ポイント事業に参加する事業者と
のつながりも強くなり、この事業をきつ
かに国立市の商業が幾分か強固になつた
のではないかと思います。

メルカード商店会会長の時代は、商店
会のお祭りを企画しました。今も祭りは
続いています。企画当時はメルカード
商店会周辺の環境に活気があつた頃で、
すこい賑わいになりました。

—その後東京国立ロータリークラブや国
立市老人クラブ連合会にて活動をされた
経緯等について教えてください。

勧誘されたことがきっかけで国立ロー
タリークラブに加入したのですが、会員
は地元の商工業者の方が多く、異業種
の人たちと交流できる機会として勉強にな
りました。経営の話、人の動かし方の話の
ほか、奉仕活動が地域の活性化にとつてい
かに大切な学びました。

クラブでの活動としては、留学生のホ
ームステイを受け入れたことが特に印象
に残っています。半年程の期間で、ラン
ス、ブラジル、アメリカ、ヨーロッパの人等、
色々な国の留学生を受け入れました。

東京国立ロータリークラブでの活動を

終え、多少時間に余裕ができたところで、
今度は国立市老人クラブ連合会に所属
しました。こちらの会員も年齢や職業が
様々で、とても刺激的でした。

—どちらの組織においても、地域への奉仕
活動ということを念頭にレクリエーション
を行ってきました。家庭で不幸があつた方
や体が不自由な方のそばに寄り添い、一
緒の時間を過ごしていくことは、健常者の
務めだと今は考えています。

—国立市のこれからについて、どのように
お考えですか。

—事業者の目線で見ると、やはり小売業
者にとっては難しい時代になつてきたと思
います。市内で普通に物品を販売するの
では勝ち残れないところまで来てしまいま
した。これからの時代で台頭していくには
例えば、品揃えでスーパーに負けないとか
魅力ある商品を販売するなど、特色が必
要不可欠になります。また、農家の方に
とても厳しい時代だと思えますが、個性
のある農地の活用、農作物の栽培に期待
をしています。

—このような多くの課題を乗り越えて、
この国立市というまちが今以上に活気に
あふれ、誰にとっても住みやすく、よそに
誇れるようなまちになることを願っていま
す。